

佐寺原遺跡4次

2015年

日田市教育委員会

序 文

この報告書は、当委員会が平成26年に鉄塔建設工事に伴って発掘調査を行った佐寺原遺跡の調査内容をまとめたものです。

調査では弥生時代の竪穴建物などが発見されました。周辺ではこれまでに3次にわたる調査が行われており、日田盆地東部の佐寺原台地上に弥生時代の大規模集落が広がっていたことが明らかとなっています。今回の調査はこれらの調査成果を追認すると共に、台地上の集落の広がりを知ることが出来ました。日田盆地における弥生集落の展開などを考える意味で貴重な発見です。

こうした発掘調査の成果をまとめた本書が、今後、文化財の保護や地域の歴史、学術研究等にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、作業に従事いただきました皆様方や、調査にご協力いただきました関係者の方々に対しまして心から厚くお礼申し上げます。

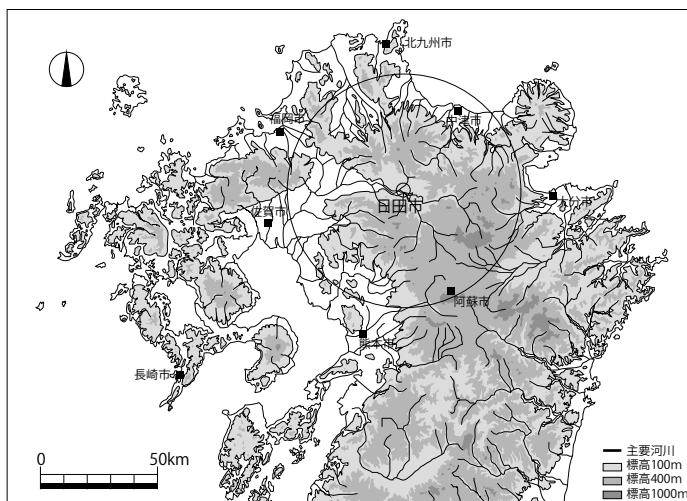
平成27年3月

日田市教育委員会教育長

三笥 眞治郎

例 言

1. 本書は、日田市教育委員会が平成26年度に実施した「佐寺原遺跡4次調査」の発掘調査報告書である。
2. 調査は携帯電話無線基地局建設工事に伴い、ソフトバンクモバイル株式会社の委託業務として、日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
3. 調査現場での実測は森山敬一郎（発掘作業員）が行い、写真撮影は担当者が行った。
4. 本書に掲載した遺物実測・遺物写真撮影、遺構・遺物の製図は雅企画有限会社に委託した。
5. 挿図中の方位は全て磁北を示し、国土座標は世界測地系に基づいている。
6. 写真図版の遺物に付した数字番号は、全て挿図番号に対応する。
7. 出土遺物及び図面・写真類は日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
8. 本書の執筆編集は渡邊が担当した。



日田市の位置



大分県の行政地区

本文目次

I	調査に至る経過と組織	1
II	遺跡の立地と環境	2
III	調査の記録	
	(1) 調査の概要	3
	(2) 遺構と遺物	4
IV	まとめ	6

挿図目次

第1図	調査区配置図 (1/6,000)	1
第2図	周辺遺跡分布図 (1/25,000)	2
第3図	周辺地形図 (1/1,000)	3
第4図	基本土層図 (1/40)	3
第5図	調査区全体図 (1/100)	3
第6図	竪穴建物実測図 (1/60)	4
第7図	掘立柱建物実測図 (1/60)	5
第8図	出土遺物実測図 (1/2、1/4)	5

図版目次

図版1	上段 調査区全景 (西から)	
	① 遺構検出状況 (西から)	
	② 完掘状況 (東から)	
	③ 完掘状況 (北から)	
	④ 竪穴建物 (南から)	
図版2	⑤ 掘立柱建物 (南西から)	
	出土遺物	

本文写真目次

本文写真1	調査作業風景①	
本文写真2	調査作業風景②	
本文写真3	基本土層	3

表目次

第1表	出土遺物観察表	6
-----	---------	---



写真1 調査作業風景①



写真2 調査作業風景②

I 調査に至る経過と組織

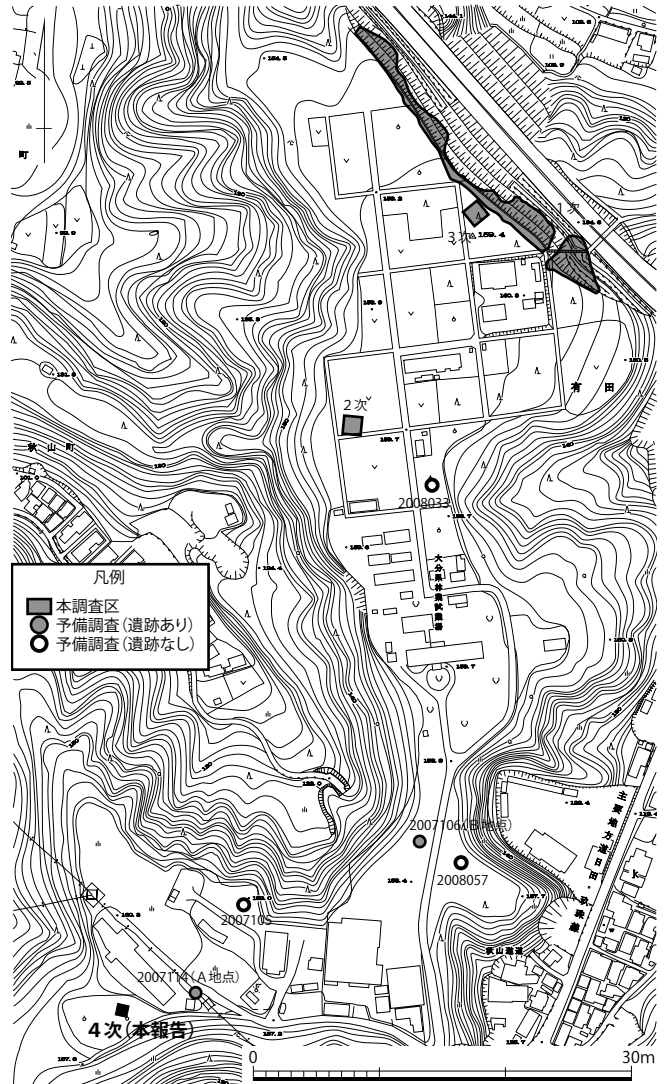
平成 25 年 11 月 20 日付けで (株) コアテックより市教育委員会に日田市大字北豆田字御料原 822 で携帯電話無線基地局の建設工事に先立つ事前照会文書 (事前審査番号 2013076) が提出された。この開発予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である佐寺原遺跡に該当し、遺跡の所在の有無を確認する必要があるものと判断された。そこで、工事の取扱いについて協議が必要である旨の文書回答を行い、12 月 5 日には予備調査依頼が提出された。12 月 25 日に重機を用いて予備調査を実施した結果、対象地に土坑やピットなどが発見され、遺跡の存在が確認された。

こうした結果をもとに、開発主と遺跡の取り扱いについての協議を重ねたところ、予定地の工事は全面掘削にて行われることから、この部分における遺跡の保存は困難であると判断し、翌年度当初に対象地約 137 m²の発掘調査を実施することとなった。この際、この工事の申請者が下請け会社であることから、主たる開発主であるソフトバンクモバイル (株) を事業主に変更して協議を行い、翌年度に調査を実施することとなった。そこで、平成 26 年 4 月 8 日に事業主との委託契約を取り交わし、平成 26 年 4 月 10 日から 4 月 16 日の間、発掘調査を実施した。その後、平成 27 年 1 月 22 日～23 日の間整理作業を実施し、報告書作成を行った。調査に関する日誌は以下のとおりである。

- 4 月 10 日 機械を用いて表土除去を実施する。
- 4 月 11 日 遺構検出を開始する。
- 4 月 14 日 遺構の掘り下げが完了する。
- 4 月 16 日 遺構の実測及び機材を撤収して調査を完了する。

なお、調査組織は次のとおりである。

- 調査主体 日田市教育委員会
- 調査責任者 合原多賀雄 (日田市教育委員会教育長)
(～平成 26 年 6 月)
三笠眞治郎 (同教育長) (同年 7 月～)
- 調査統括 財津俊一 (同教育庁文化財保護課長)
- 調査事務 園田恭一郎 (同埋蔵文化財係長)
行時桂子 (同主査)
諫山温子 (同主事)
- 調査員 若杉竜太 (同主査【予備調査担当】)
渡邊隆行 (同主査【報告担当】)
上原翔平 (同主任【調査担当】)
- 調査作業員 秋吉新六、江藤キミ子、河津モリ
北澤幾子、財津真弓、宮木博幸
森山敬一郎
- 整理作業員 伊藤一美、安元百合



第 1 図 調査区位置図 (1/6,000)

II 遺跡の立地と環境

佐寺原遺跡は、日田盆地北東部の「佐寺原」と呼ばれる、阿蘇火砕流堆積により形成されたと考えられる台地上に位置する。この台地周辺には花月川や有田川などが流れ、この河川へと広がる小さな谷が幾重にも入り組んだ複雑な台地地形を形成している。調査対象地は台地南西側に伸びる尾根上にあたる。台地上の土地利用は、最も広い範囲を県施設が占有しており、残る箇所も工場や畑として利用されている状況である。

調査区周辺ではこれまで、高速道路建設や鉄塔建設などに伴う3次の調査が行われ、5箇所の試掘調査などが行われている(第1図)。これらの調査から、佐寺原遺跡は、弥生時代中期初頭から後期末にかけての大規模集落遺跡が台地全体に広がっていることが判明している。

さて、この佐寺原遺跡周辺を概観すると、台地周囲の崖面などには、夕田や佐寺原、水目などの古墳時代後期の横穴墓群が巡り、なかでも夕田横穴墓群では5世紀代の出現期横穴墓などが注目される。台地北側の沖積地には、弥生時代から中世にかけての集落である夕田遺跡などがあり、有田川を挟んだ対岸には中世の集落や墳墓である川原田遺跡、弥生時代の溝などが見られた内ノ下遺跡、古墳から古代の集落と墳墓がある大行事遺跡などがあり、弥生時代から中世の集落遺跡群が沖積微高地や緩斜面上に点在している。台地西側には中世日田を治めた大蔵氏の居城である大蔵古城跡やその武家屋敷群の慈眼山遺跡などがあり、中世日田の中心的遺跡群となっている。さらに花月川を挟んだ沖積地には鎌倉から室町時代にかけての屋敷群が発見された日田条里遺跡がある。台地南側には古代官衙に関連する大型柱穴列、「田」「山」銘の墨書土器などが出土した大波羅遺跡や古墳時代の墳墓群や下駄などの木器などが出土した赤迫遺跡があることなどから、佐寺原台地南西側の緩斜面や沖積地は古代官衙の推定地となっている。台地東側の求来里川の沖積地には、古代の掘立柱倉庫群などが確認された尾漕遺跡や古代の大集落の長迫遺跡、弥生時代の環濠集落である平島遺跡などが点在する。求来里川両岸の尾根上には大迫遺跡や中尾古墳群、尾漕古墳や塔ノ本古墳群などの古墳時代の古墳や墳墓群が見られる。さらに求来里川右岸の丘陵部には、弥生時代の集落跡の祇園原遺跡や縄文時代の落し穴遺構や古代建物群などが確認された有田塚ヶ原遺跡、中世の鍛冶遺構が確認されたクビリ遺跡、縄文時代の炉跡や古代から中世の集落が確認された石ヶ迫遺跡などが見られる。このように、佐寺原遺跡周辺は各時代の遺跡が密集している地域であることが分かる。



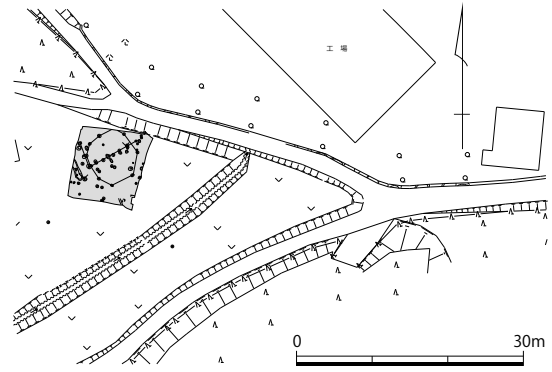
第2図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

Ⅲ 調査の記録

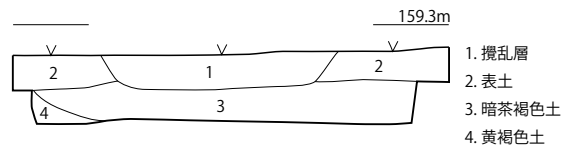
(1) 調査の概要 (第3～5図)

調査は事前調査の結果を踏まえて、機械により順次遺構検出面まで掘り下げてから確認を行った。調査対象地は鉄塔建基礎施工範囲に該当し、幅約10mの正方形を呈する。最終的な調査面積は約87.8㎡を測る。地形面はほぼ平坦で、表土層直下約20cmにて暗茶褐色土ないし黄褐色土のローム質土の遺構面が検出された。現地が畑として利用されており、その際に大幅な造成を受けて平坦となったものと考えられ、そのことを示すように遺跡面の大半は削平を受けていた。

調査において検出された遺構は竪穴遺構1軒、掘立柱建物1棟、ピット多数であった。遺構埋土は暗褐色土と淡黒褐色土で、大半が前者であったが、埋土の違いによる明確な期差を抽出することは出来なかった。



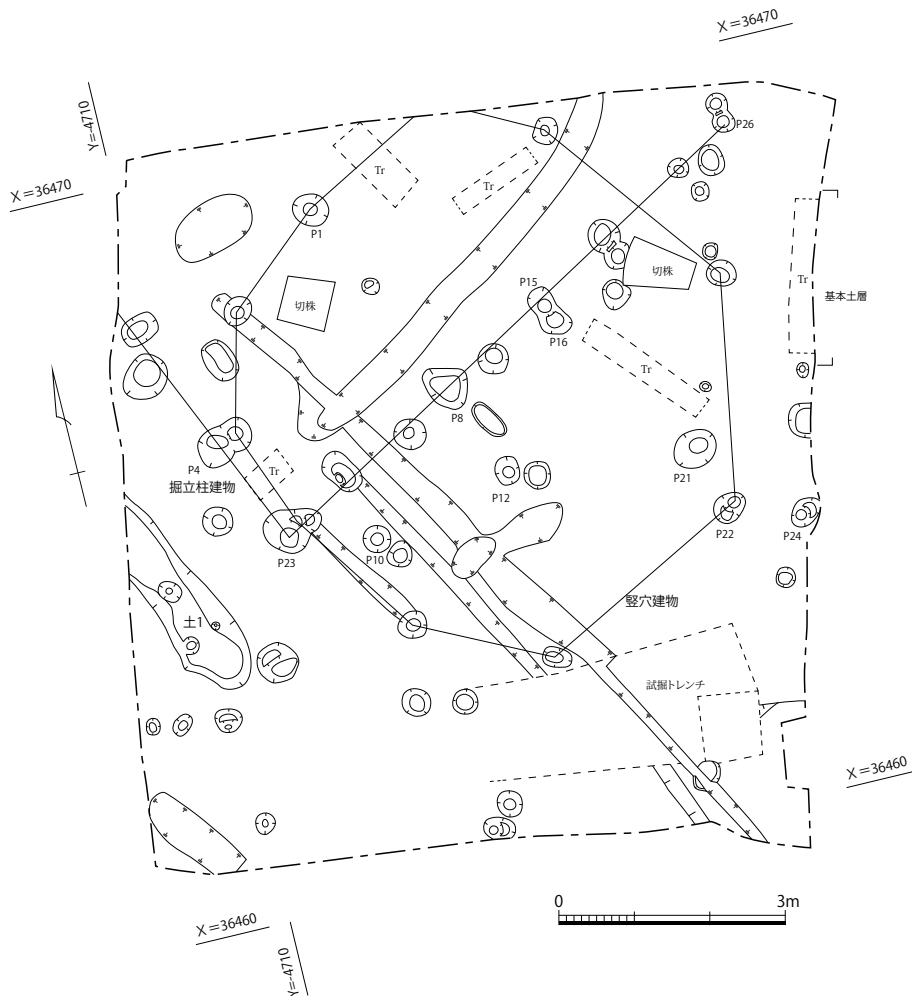
第3図 周辺地形図 (1/1,000)



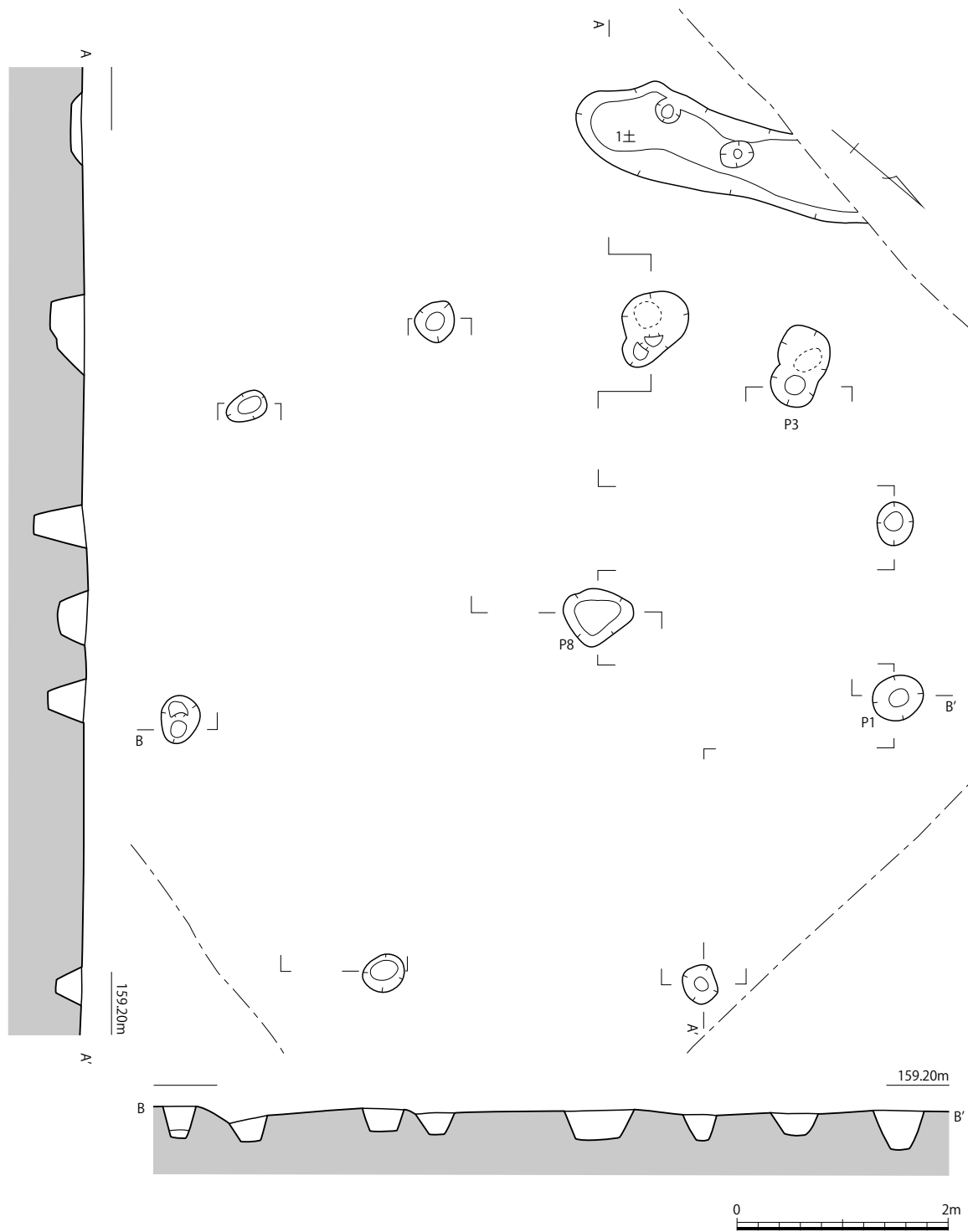
第4図 基本土層図 (1/40)



写真3 基本土層写真



第5図 調査区全体図 (1/100)

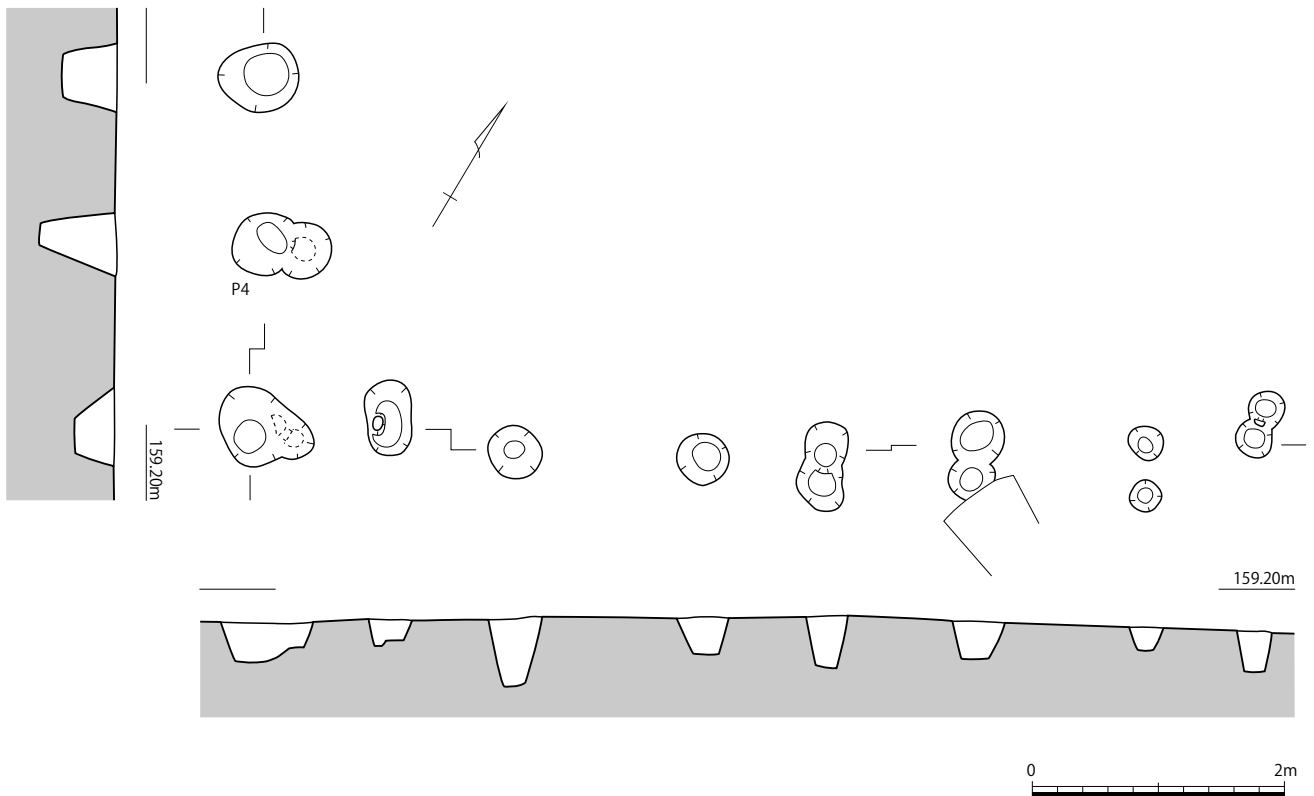


第6図 竪穴建物実測図 (1/60)

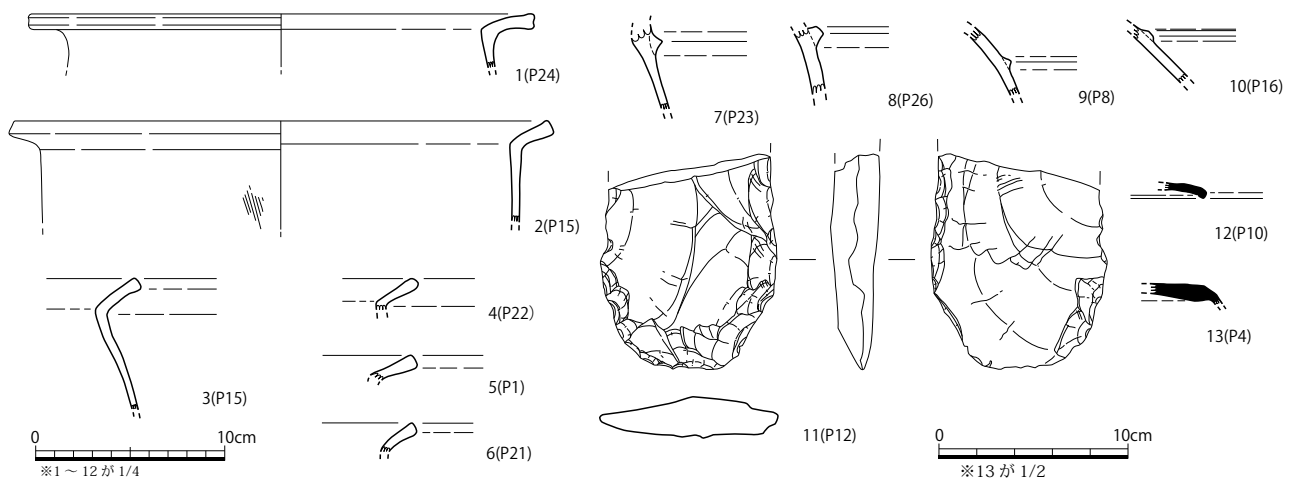
(2) 遺構と遺物

竪穴建物 (第6図、図版1)

調査区内中央部分で検出された遺構で、掘立柱建物に切れ、掘り方などの大半が削平により失われている。柱穴のみの検出であるが、P8が中央土坑、1号土坑が掘り方の付帯施設と考えられることから、竪穴建物と判断した。直径40～50cm 深さ30cm程の支柱穴が8～9本めぐり、中央部には長さ60cm程度の土坑 (P8)



第7図 掘立柱建物実測図 (1/60)



第8図 出土遺物実測図 (1/2、1/4)

が見られる。中央土抗と考えられるが、周囲に火床面は確認できなかった。1号土坑は浅く、柱穴に沿って巡ることから、竪穴に付随する施設の可能性が高い。中央土抗付近から復元すると直径10m前後の大型円形住居と推測される。この範囲内に遺物が出土したピットが集中していた。

出土遺物 (第8図、図版2)

竪穴建物に付随する柱穴P1、8、22から弥生土器が出土した以外に、調査区内のピットから多数弥生土器が出土している。調査区の大半を竪穴建物が占めていることから、これらの土器も竪穴建物に付随する可能性が高い。ここではこれら弥生土器類も竪穴建物出土遺物として紹介する。

1～8は弥生土器甕である。1は端部をつまみ上げる跳ね上げ口縁部の特徴を有する。2～6はくの字口縁である。7・8は甕の頸部である。7は断面三角形状の突帯を巡らせ、8の突帯は断面逆台形状を呈する。9・10

は壺の胴部で、一条の突帯が巡る。そのほか、11はP12より出土した打製石斧である。短冊形で半分が欠損している。共伴する土器はないものの、縄文時代の遺物も見られないことからこの竪穴に伴うものと想定した。

掘立柱建物（第7図、図版2）

調査区中央部分に位置し、竪穴建物に切られ、残りは調査区外に広がっている。2間以上×4間以上の建物と考えられ、柱穴が南北3列、東西5～6列並び、東西方向に主軸を取るものと考えられる。梁行方向の柱穴間の距離は約1.5m、桁行方向の柱間の距離は約2mを測り、心々距離で東西長軸約8m、南北短軸約2.9mを測る。検出面で柱穴規模は約40～60cmの円形を呈し、深いもので深さ60cmを測る。P4から須恵器（13）が出土したほかは、大半が弥生土器が出土した。そのほかP10から須恵器（12）が出土しており、建物群に伴うピットである可能性がある。

出土遺物（第8図、図版4）

12・13は須恵器坏蓋である。12は口縁端部を丸く折り曲げる。13は蓋天井部の破片である。

IV まとめ

今回の調査では、竪穴建物1軒、掘立柱建物1棟、土抗、ピットが確認された。

10m真四角の狭い範囲であるが、上面の削平を受けていなければ相当の遺構群であったと思われる。竪穴建物の時期は土器の口縁部しか出土していないことから判然とはしないが、渡邊編年の弥生中期7期から後期1期に収まるものと考えられる。復元される円形住居規模が約10mを呈していることから、日田市内で竪穴が大型化する時期に合致していることから、中期末から後期初頭頃と判断して差し支えないものと思われる。掘立柱建物については、出土須恵器の坏蓋の口縁部形態から、8世紀前半の時期に相当するものと考えられる。

このように、本調査区からは弥生時代中期末から後期初頭と古代の2時期の生活遺構が確認された。1～3次調査において、弥生中期初頭から後期末の幅広い時期の遺構が確認されているのに対し、本調査地周辺では中期末前後に時期が限定されることから、中期末頃に台地全面に集落が広がっていたものと想定され、相当規模の弥生集落であったことが窺い知れる発見と言えよう。

次に古代の遺構は過去の調査ではまったく発見されておらず、台地西端にのみ遺構が所在している可能性がある。佐寺原台地西側には古代の木柵組み井戸や墨書土器が出土した慈眼山遺跡や大型柱穴列が出土した大波羅遺跡などの古代官衛関連遺構が多数見られる。本調査区の建物は、これらの遺構群に関連する可能性も想定され、周辺地域の土地利用を考える上で興味深い調査成果と言える。

このように、当調査では小規模ながらも、日田市の歴史を知るうえで貴重な調査成果を得ることが出来た。

【参考文献】

- 渡邊隆行 2014 「調査総括・日田市域の弥生土器の変遷と吹上遺跡出土土器の特色」『吹上遺跡VI』日田市埋蔵文化財調査報告書第112集 2014
 若杉竜太編 2011 『佐寺原遺跡・2・3次調査』日田市埋蔵文化財調査報告書第98集 日田市教育委員会
 友岡信彦・松本康弘編 『佐寺原遺跡 尾漕遺跡群 有田塚ヶ原古墳群』九州横断道関係埋蔵文化財発掘調査報告書9 大分県教育委員会

表1 出土遺物観察表

図版	番号	遺構名	種別	器種	法量			調整		胎土	焼成	色調				備考
					口径	底径	器高	内面	外面			外面	マシ表色	内面	マシ表色	
8	1	P24	弥生	甕	(26.7)	-	(2.8)	不明	不明	ACEG	良好	にぶい褐	10YR5/4	にぶい褐	10YR5/4	
	2	P15	弥生	甕	(28.1)	-	(5.3)	ナデ	ハケ目	ACDF	良好	橙	2.5YR6/6	橙	2.5YR6/6	
	3	P24	弥生	甕	-	-	(6.9)	不明	不明	ACDE	良好	にぶい黄褐	10YR7/3	にぶい黄褐	10YR7/3	
	4	P22	弥生	甕	-	-	(1.6)	不明	不明	ACDF	良好	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4	
	5	P1	弥生	甕	-	-	-	不明	不明	ACDE	良好	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4	
	6	P21	弥生	甕	-	-	(1.5)	不明	不明	ACD	良好	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4	
	7	P23	弥生	甕	-	-	(4.5)	不明	不明	AC	良好	にぶい黄橙	10YR7/4	淡黄	2.5Y8/4	
	8	P26	弥生	甕	-	-	-	不明	不明	ACD	良好	淡黄	2.5Y8/3	黄灰	2.5Y4/1	
	9	P8	弥生	壺	-	-	-	不明	不明	ACDE	良好	橙	7.5YR7/6	浅黄橙	10YR8/4	
	10	P16	弥生	壺	-	-	(3.1)	不明	不明	ACD	良好	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3	
	12	P10	須恵器	坏蓋	-	-	(0.8)	ナデ	回転ナデ、ナデ	EF	良好	灰色	N6	灰色	N6	
	13	P4	須恵器	坏蓋	-	-	(1.1)	不明	不明	BE	不良	灰白色	5Y8/1	灰白色	5Y8/1	

法量の単位は cm ○ 書きは残存と復元を表す。
 胎土：A 角閃石 B 石英 C 赤色粒子 D 赤色粒子 E 白色粒子 F 黒色粒子
 G 雲母 H 砂粒



調査区全景（西から）



①遺構検出状況（西から）



②完掘状況（東から）



③完掘状況（北から）



④竪穴建物（南から）

写真図版 2



⑤掘立柱建物（南西から）



8-1



8-2



8-3



8-4



8-5



8-6



8-7



8-8



8-9



8-10



8-11



8-12



8-13

報告書抄録

ふりがな	さてらはらいせき4じ							
書名	佐寺原遺跡 4次							
副書名								
巻次								
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第117集							
編著者名	渡邊 隆行							
編集機関	日田市教育庁文化財保護課							
所在地	〒877-0077 日田市南友田町 516-1							
発行機関	日田市教育委員会							
所在地	〒877-8601 日田市田島 2-6-1							
発行年月日	2015年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
佐寺原遺跡	大分県日田市大字豆田字御料原 822 ほか	44204-6	204135	33° 19' 34.6"	130° 56' 58.3"	140410～140416	87.8 m ²	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
佐寺原遺跡	集落	弥生 古代	竪穴建物、掘立柱建物、ピット		弥生土器、打製石斧			
要約	<p>遺跡は日田盆地東部の台地上に位置する。本遺跡では今回の調査を含め、4次（箇所）にわたる調査が行われているが、住居跡・墓・溝等が確認され、その時期は弥生時代前期末から後期終末頃までと幅広い。</p> <p>4次調査では弥生時代中期末から後期初頭頃の竪穴建物と古代の掘立柱建物が確認された。過去の調査成果と併せて、弥生中期末頃に台地全体に集落が広がることが明らかとなった。また、古代の建物は、台地西側に多く見られる官衛関連施設と関連する可能性が高い。</p>							

佐寺原遺跡 4次

日田市埋蔵文化財調査報告書第117集

2015年3月31日

編集 日田市教育庁 文化財保護課

877-0077 大分県日田市南友田町 516-1

発行 日田市教育委員会

877-8601 大分県日田市田島 2-6-1

印刷 山本印刷工業株式会社

877-0059 大分県日田市大日町 3986-3



日田市